

## 富山県射水市で初確認されたカダヤシ *Gambusia affinis*

不破光大<sup>1)</sup>・稲村 修<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>魚津水族館 〒937-0857 富山県魚津市三ヶ1390

First Record of *Gambusia affinis* from Imizu City, Toyama Prefecture, Japan

Mitsuhiro Fuwa<sup>1)</sup> and Osamu Inamura<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>Uozu Aquarium, 1390, Sanga, Uozu-shi, Toyama 937-0857, Japan

要約：特定外来生物に指定されている淡水魚のカダヤシが、富山県射水市内で初めて確認された。カダヤシが見つかった「せせらぎ水路」は、延長1.6kmの水路で神通川左岸浄化センターの処理水が利用されており、ニシキゴイが見られる。両岸がコンクリート等の人工物で覆われており、草岡神社前の浅場でカダヤシが多数採集された。侵入の経緯を探るために行った、せせらぎ水路を管理する公益財団法人富山県下水道公社の聞き取り調査により、2005年3月16日に水路のボウフラ駆除を目的に50個体のカダヤシが放流されたことがわかった。2005年6月1日に「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）」が施行され、カダヤシは第二次指定種として2006年2月1日に指定されており、本地点への放流は特定外来生物に指定される以前であった。今回の調査では、本地点での人的な放流から14年余りが経過しており、増殖し、定着していることが認められた。

### はじめに

カダヤシはカダヤシ科に分類される北アメリカ原産（ミシシッピ川流域からメキシコ北部まで）で小型の純淡水魚で、在来生物へ深刻な影響を及ぼしていることから「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」により特定外来生物に指定されている（環境省，2018）。雄の全長は30mm、雌の全長は50mmに達し、日本産メダカに似るが尾鰭の後縁が丸く、臀鰭は背鰭より前方に位置し、さらに雄では臀鰭が交接脚に変形することで区別できる（川瀬，2015）。富山県では、1998年に黒部市で確認されているが（魚津水族館，2003）、今回、射水市堀岡団地内において市内で初めて確認され、富山県では2例目となるカダヤシの移入・定着を確認したので報告する。

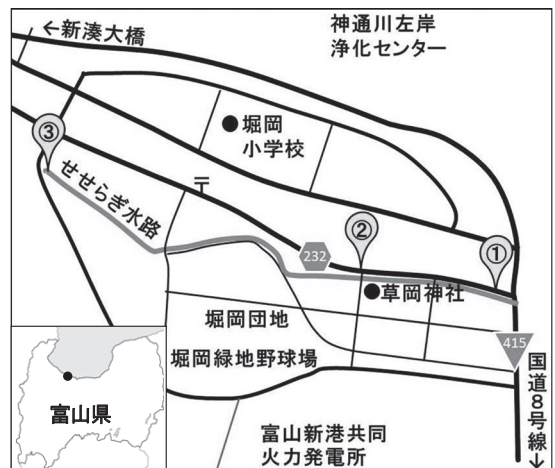


図1 せせらぎ水路の調査地点

## 材料と方法

2018年10月8日に、射水市堀岡地内にある「せせらぎ水路（延長1.6km）」（図1）の下流末端部においてカダヤシの雌を採集した。そこで2019年7月4日に改めて採集調査を行った。調査地点は、初確認したせせらぎ水路の下流側末端から上流部にある放水口とみられるところまでとし、水路の縁を歩いて目視観察したほか、①放水口（図2）、②草岡神社前（図3）、③水路末端部（図4）の3地点で手ダモ（目合い4mm）を使って採集した。調査時の水温は25.0℃であった。

## 結果と考察

今回の調査では102個体のカダヤシが採集された。カダヤシ以外では、ニシキゴイが多数目視で確認されたほか、シオカラトンボの幼虫が採集された。地点別にみると、①放水口では採集できなかった。最も多くのカダヤシが確認されたのは②草岡神社前の水路の一部が階段状になっているところで、水深約3cmの浅場に全長10～20mm前後の個体が群れで見られ（図5）、水路をのぞき込むと逃げ惑う姿が目撃された。③水路末端部は水深が約60cmで、生息数は少ないが全長45mmの雌が採集された（写真6）（雄は写真7）。

侵入の経緯について、せせらぎ水路を管理する公益財団法人富山県下水道公社で聞き取りを行ったところ、2005年3月16日に水路のボウフラ駆除を目的に50個体のカダヤシが放流されていた。また、藻類駆除のためにソウギョの放流も行われたとのことであったが、今回はソウギョを確認できなかった。2005年6月1日に「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）」が施行され、2006年2月1日にカダヤシ

が第二次指定種として指定されたことから、本地点へ放流されたのは特定外来生物に指定される以前であった。

せせらぎ水路は両岸ともコンクリート等の人工物で覆われており、水草や抽水性植物は見られないが、卵胎生で特定の産卵基質を必要としないカダヤシにとっては繁殖可能な環境であった。放流から14年余りが経過しており、本地点での増殖が認められ、定着していることが確認された。せせらぎ水路は人工的な水域であり、カダヤシの影響を受ける在来の魚類は生息していなかった。この周辺には、公園や水路などがあり、カダヤシが人為的に持ち出されて生息可能な環境に放流されれば、増殖や定着するものと推測できる。

今後、分布の拡散を防ぐためには、本地点での根絶が理想的だが、現実的には難しいと思われる。次善の策として、本地点に特定外来生物であるカダヤシが生息していることを近くの小学校や周辺住民等に周知することや、持ち出しを禁止する啓発が必要である。また、すでに周辺へ拡散の有無についても、早急に調査する必要があると考えられる。

## 参考文献

- 稲村 修, 1991. 富山県における外国原産の両生類・爬虫類・魚類について. 魚津水族館年報 1 : 32-42.
- 環境省, 2018. 日本の外来生種対策. <http://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list.html> (オンライン. 参照2019年11月26日)
- 川瀬成吾, 2015. カダヤシ. 解説. 細谷和海(編・監修). 日本の淡水魚. pp.298-299. 山と溪谷社. 東京.



図2 ①放水口 神通川左岸浄化センターの処理水が利用されている



図5 ②の浅場で捕獲されたカダヤシの群れの一部



図3 ②草岡神社前 写真手前の浅場に多数のカダヤシが確認された



図6 カダヤシの雌



図4 ③水路末端部 ゆっくりと流れ、調査した3地点のうち最も水深が深い



図7 カダヤシの雄 腹鰭が交接脚に変形している